

むかしの横浜(昭和40年頃)

写真はすべて横浜市史資料室所蔵資料です



関内駅工事中(昭和48年頃)

建設公害

高度成長期である昭和30年代初頭から昭和40年代半ばに工事量が拡大し、騒音・振動などの建設公害が発生しました

汚れた空
工場から出る有害物質を含む煙が、各地で大気汚染問題を引き起こしました。



市内の工場地帯(昭和37年頃)



急速な車の増加

昭和30年代半ば以降、車社会化が急速に進み、排出ガスによる大気汚染、騒音や振動による生活環境の悪化等の問題を引き起こしました

汚れた川

生活排水や工場排水が大量に流れこむようになったことで川の水は汚れ、魚などもいなくなり、どぶ川とよばれるようになりました

枯渇性エネルギー

臨海部の埋立地にはたくさんの工場が立てられ、その主要エネルギーとして石炭が多く使われていました



本町通(コンテナ街道)(中区)



川の清掃(昭和46年頃)



アマノスタジオ撮影

根岸湾臨海工業地帯(昭和52年頃)